

## 介護老人福祉施設入所者の主観的幸福感に関連する要因

マツダイラ	ユカ	タカヤマ	シゲコ
松平	裕佳*	高山	成子 <sup>2*</sup>
スガヌマ	ナルフミ	オガワ	イクエ <sup>4*</sup>
菅沼	成文 <sup>3*</sup>	小河	育恵 <sup>4*</sup>

**目的** 介護老人福祉施設に入所している高齢者の主観的幸福感の状況、および主観的幸福感の関連要因について、とくに入所者の生活実態に着目した上で明らかにする。

**方法** 北陸2県8か所の介護老人福祉施設入所者のうち、65歳以上で、入所して3か月以上経過し、認知症高齢者の日常生活自立度においてランクⅡ以下の者の124人を調査対象とした。2002年8月下旬から11月上旬にかけて、構成的質問調査票を用いた面接法による横断調査を行った。そのうち115人（男性26人、女性89人、平均年齢83.16歳（SD=7.13））を分析対象とした。調査項目は、主観的幸福感をPGCモラール・スケール改訂版で測定し、その要因として「基本属性」、「日常生活動作」、「健康状態」、「施設内の人間関係」、「生活の自由度」の5つの枠組みから構成した。

**結果** PGCモラール・スケール得点の平均値は、10.06点（SD=3.95）であった。重回帰分析の結果、介護老人福祉施設入所者の主観的幸福感の関連要因は、「生活の中で自分の意思で決定していると感じる」、「職員の笑顔を感じる」、「気になる病気がない」、「体の痛みがない」、「腎・泌尿器系疾患がない」ことであった。

**結論** 介護老人福祉施設入所者において主観的幸福感の高い者は、日常生活において自由度が確保されていること、人間関係が良好であること、身体的健康状態が良好であることが見出された。このことから、介護老人福祉施設における望ましい居住環境を整備する上で、入所者がケアサービスを自由に選択できる環境を整備しつつ援助を行うこと、良好な人間関係を築けるよう働きかけること、入所者の健康状態について十分に配慮することが重要であることが示唆された。

**Key words** : 主観的幸福感, 介護老人福祉施設, 生活の自由度

\* 石川県立看護大学

<sup>2\*</sup> 神戸市看護大学

<sup>3\*</sup> 高知大学医学部医学科

<sup>4\*</sup> 関西福祉大学看護学部看護学科

連絡先：〒929-1212 石川県かほく市中沼ツ7-1  
石川県立看護大学 松平裕佳